いんふぉ〜おしか

05
2019
Vol.37

金華山黄金山神社 初巳大祭神輿渡御

特　集　牡鹿の自然を体感して遊ぼう！
・なかのかなが『なかのカヤック』をはじめました。
・アクティビティ大集合
保健師さんの健康コラム
風しん事情について知っていますか？
郷の音　菊田 憲男さん
リボーンアート通信 vol.3 桃浦編
お知らせ
・シルクスクリーン体験　トートバックにスリマッカ！
・7月6日（土）はまっこ市開催決定！
・お茶っ子しながらパソコン教室に参加しませんか？
・てくてくおしか

牡鹿半島には、実にさまざまなアクティビティ（遊び・活動）がたくさんあります。その一部を紹介。休日を利用して、ぜひ牡鹿半島で遊んで、これまでと違った視点から見て感じて、牡鹿半島を再発見してみてはいかがでしょうか！

＼たくさんあります！／ 牡鹿半島周辺 アクティビティ大集合

ビーチ遊び

石巻ユニバーサルビーチ委員会

利用者の年齢・性別・障がいの有無などの理由で特別扱いしないという考え方「ユニバーサルデザイン」を大切にし、誰しもが海を通して喜びや楽しみを分かち合うことを目的に活動しています。

誰もが安心して、気軽に楽しめる海水浴場「ユニバーサルビーチ」の環境づくりに向け、活動の周知や支援者ネットワークづくりなどをおこなっています。

【お問い合わせ】
mail : ishinomaki.ubi@gmail.com

ビーチクリーン

石巻海さくら

「月に1回、愛する海と浜のそうじをしよう！」を合言葉にさまざまなジャンルの海を愛する人たちと一緒に活動を続けています。

石巻・女川エリアの浜でビーチクーリン〔おらほの umihama そうじ〕を毎月実施しています。地元、県内外、ときには海外からの参加者が集い、みんなで楽しくゴミ拾いをしています。

【お問い合わせ】
mail : info@i-umisakura.com

ISHINOMAKI UMISAKURA

SUP・カヌー

Active Life Lab
アクティブ ライフ ラボ

牡鹿半島の付け根にある蛤浜にて、カナディアンカヌーやSUPなどの体験プログラムを提供しています。常にインストラクターが付いて助言や指導をおこなうため、初心者でも気軽に楽しむことができます。

※ SUP（スタンドアップパドルサーフィン）
大きめのサーフボードに立ち、パドルを使って漕ぎ進む、新感覚のマリンスポーツ。

【開催時間】10:00～12:30
【集合場所】石巻市桃浦字蛤浜
【予約方法】ホームページから（電話予約不可）
《SUP》
【開催時期】6/1～9/30
【対象】中学生以上
【参加料金】2～4名：7,500円 / 人（税抜）
〔1名のみ：13,000円（税抜）〕

《カヌー》
【開催時期】10/1～10/31
【対象】小学生以上
【参加料金】2～4名：6,500円 / 人（税抜）
〔1名のみ：13,000円（税抜）〕

【お問い合わせ】
石巻市渡波浜曽根の壱47-1
TEL：090-2220-3393（不定休）

サイクリング

そらうみサイクリング

地元のガイドと一緒に、サイクリングで牡鹿半島の浜や石巻・女川をめぐって、地元の暮らしや食の魅力を体験するサイクリングアクティビティです。

《ローカル体験型サイクリング》
〔**浜めぐり鮎川浜** 食体験サイクリング / 16km〕
荻浜から鮎川までサイクリングでめぐりながら、小渕浜などに立ち寄り漁業見学や浜料理などを体験。

《ロードバイク初心者向けサイクリング》
〔**浜ポタリング** ロードバイク初心者向け / 26km〕
牡鹿半島のアップダウンにチャレンジ！
〔**浜ロングライド牡鹿半島** はじめてのロングライド / 64km〕牡鹿半島1周にチャレンジ！
〔**川めぐりポタリング北上川** ロードバイク初心者向けサイクリング / フラット 50km〕
石巻から北上川沿いに桃生・柳津の往復コース！など。

【参加費用】いずれも 8,000 円 / 人

【お問い合わせ・お申し込み】
ホームページ　https://www.soraumicycling.com/
mail：info@soraumicycling.com

soraumi cycling

ダイビング

宮城ダイビングサービス High Bridge ハイブリッジ

牡鹿半島や女川の海を潜って楽しむ、PADI認定のダイビングショップです。
水中の楽しみ方はさまざまで、魚と一緒に泳いだり、陸上では味わえないような感覚を発見したり、年齢問わず幅広く楽しめます。

狐崎浜で定置網やカキ棚ダイビング、谷川浜でホヤ棚や定置網でのダイビング地元の漁業と密着した、特殊なダイビング体験が楽しめます。

【体験ダイビング】
〔1ボートダイブ〕 15,000円（器材代・レクチャー込） ※2名～
〔1ビーチダイブ〕 12,000円（器材代・レクチャー込） ※1名～
【ファンダイビング】
〔2ボートファンダイブ〕 18,000円（レンタル別途）

＊ その他、ライセンス取得のための各種講習など、さまざまなメニューがあります。

【お問い合わせ】
牡鹿郡女川町女川浜字大原1-42
シーパルピア女川D棟-16
TEL：0225-90-4416
mail：info@high-bridge1.com

High bridge Miyagi Diving Service

クライミング

FIRST ASCENT JAPAN.
NPO 法人ファースト アッセント ジャパン

金華山は、クライマー達から「宝島」と呼ばれるほど、クライミングに適した岩の宝庫です。震災後・2013年から、金華山の登山道整備や森林整備をおこない、かっこいい写真や動画で島の魅力や現状を発信しています。アウトドアスポーツを通して地域復興活動をおこなっています。

今年秋には、日本全国から多数の登山者を迎える大きなイベントや定例のボルダリングイベントを控え、準備を進めています。石巻や女川など、沿岸部の町に多くの人が訪れるのがうれしく、これからも地域に寄り添う活動を続けていきます。

【お問い合わせ】
加美町味ヶ袋薬莱原1-81
ボルダリングパークやくらいWALL
TEL/FAX：0229-25-4544

農林漁猟

ももの わ

桃浦を主な拠点に、無農薬無科学肥料での野菜作りやスギ林の間伐、狩猟に漁業と、「山・里・海」を繋ぐ「わ」と、そこに集う人々の「わ」を広げていく活動をしています。

本業のかたわら、「農林漁猟」を自分たちの暮らしに取り入れたいメンバーが集まってできたグループです。一緒に「わ」を広げていく仲間を募集中！

【お問い合わせ】
mail：k.morinowa2020@gmail.com

牡鹿の自然を体感して遊ぼう!

なかのかなが『なかのカヤック』をはじめました。

一昨年度までいんふぉ・おしか発行室のメンバーでした、**なかのかな**です。

石巻に暮らして7年目を迎えたこの4月。牡鹿半島を拠点に、シーカヤック体験ツアーやちょっとした山歩きなど、自然のなかの遊びを提案する「牡鹿半島ガイド なかのカヤック」を開業しました。

カヤックの楽しみ

シーカヤックとは、艇(写真下)に乗り込み、両端に水かき板(てい)がついたパドルを手に、海上を人力で漕いでいく海のアクティビティ(遊び・活動)です。初めての方やお子さんでも簡単に漕ぐことができ、艇の形状や材質によって、川や湖でも楽むことができます。

水面と同じ高さに座っている状態なので、漁船よりも海を間近に感じられ、普段なかなか見ることのない新鮮な景色を、全身で楽しむことができます。

誰でも安心して安全なツアーを楽しめるよう、スタッフは日頃からトレーニングや研修を重ねています。

漕ぐことに慣れてきたら、カヤック操作の技術アップを追求するおもしろさも体験してください。一緒に牡鹿半島の海を楽しみましょう!

浜に魅せられて

小さい頃から、休日は家族キャンプやアウトドア遊びに連れて行ってもらうことが多く、自然のなかで過ごすことが大好きでした。

転機は高校2年生。修学旅行で沖縄を訪れ、マングローブ林のカヤックツアーに参加したときのことです。カヤックやトレッキングで遊ぶ楽しさを通して、自然環境を守り、後世へ残していくことの大切さを伝えるガイドのおじさんの話に激しく感動しました。その場での感動に止まらず、自然の楽しさや大切さを伝えるネイチャーガイドの仕事に、強く憧れるようになりました。

森の勉強をしていた学生時代は、自転車に荷物を積んで走る「野宿旅」に目覚め、仲間と日本各地を旅しました。社会人になってからも、いろんな経験を積もうと、自転車や登山ほか、各地へ繰り出して遊びまわりました。

2013年春、ご縁があって震災支援のお仕事をいただき、石巻へやって来ました。当時は、沖縄でガイドをやりたい気持ちが大きく、石巻には半年程度の滞在予定でした。しかし、市街地から牡鹿半島へ漁業支援で通うにつれ、優しくたくましい浜の人達、海と浜の景色、新鮮な旬の食材にすっかり魅了されてしまいました。

支援という関係ではなく、たくましく魅力的な浜の人達と同じ地域に暮らすひとりとして頑張りたい思いと、こんなステキな牡鹿半島をフィールドに、ネイチャーガイドの仕事をやりたいという思いが強くなっていきました。

湾内をのんびり漕いでいきます

石巻へ来てから1年半後、人のつながりを頼り、たくさんの人に助けてもらいながら、念願の牡鹿半島生活が始まりました。カキ剥きバイトから復興応援隊、シカの有害捕獲の仕事、カヤック関連のバイトをしながら、カヤックやアウトドアの資格を取得し、ガイド業スタートに向けた準備をしていました。

環境が整い始め、開業を決意した昨年から本格的にシーカヤックガイドとしての修行と準備を進めました。これまで以上に、地域の方々をはじめ、ガイドの先輩方など、たくさんの人の力を借りて、応援してもらい、ようやくガイドのスタートラインに立つことができました。

よりステキな牡鹿半島に

岬や入り江ごとに景色がコロコロ変化

大好きな牡鹿半島ですが、海や山に潜むゴミのこと、有害と言われてしまうシカによる山への影響、防潮堤など、さまざまな課題を抱えている一面もあります。

楽しさや美味しさだけでなく、この先も魅力的な地域であり続けるためには、一部の人の働きでは限界があります。

シーカヤックや山歩きをめいっぱい楽しむことを入り口に、牡鹿半島ファンを増やし、自分や地域のこれからについて関心を持って、考えたり、行動に移す人をひとりでも増やしていきたいという思いがあります。たとえ小さな力でも、たくさん集まれば、いい方向の未来に繋がっていくはずと信じ、私にできることをしっかりやっていきたいと思っています。

いま、牡鹿半島をフィールドにさまざまなアクティビティが活発になってきています。それぞれが持つ力を活かし合い、より魅力的な牡鹿半島になるように、みんなで盛り上げていきませんか。

カヤック体験者の声

◆ カヤックは初体験でしたので、少し緊張しましたが、手厚いレクチャーのおかげで、とても充実していました。
◆ 都会の喧騒した感じから抜け出し、こういった場所でカヤックに乗り、休日を満喫するという爽快感はたまらなかったです。夏に再び訪れたいと思います。

◆ 私のイメージでは、カヤック体験ツアーというと浜の周辺をちょろっと漕いで終わり、というものでしたが、がっつり遠方まで、隠れた浜まで上陸できたので大満足でした。

◆ シーカヤックの目線で故郷の景色を見るのが初めてで、とても新鮮でした。仲間にもこの楽しさを伝えたいな。

日本セーフティカヌーイング協会 B公認スクール

牡鹿半島ガイド なかのカヤック

【開催時期】4月～10月末　**【定員】**4名
【対象】小学生以上(小学生は保護者同伴)、はじめての方からどなたでも
【場所】ものうらエリア・おぎのはまエリア

カヤックでしか上陸できないビーチで浜ランチ

《1日ツアー》
【時間】10:00~15:00 (5時間程度・みんなでつくるランチ付)
【参加料金】10,000円/人〔1名のみ:15,000円〕
(ガイド料・カヤック器材一式・ライフジャケット・ランチ食材費・税込)

《半日ツアー》
【時間】9:00~12:00 / 13:00~16:00(3時間程度・コーヒーブレイク付)
【参加料金】8,000円/人〔1名のみ:10,000円〕
(ガイド料・カヤック器材一式・ライフジャケット・休憩のおやつ代・税込)

【お問い合わせ】
TEL:090-9381-5035
FAX:0225-25-6094
Mail:info@nkn-kayak.com

パルコ：クジラを獲っちゃダメって怒っている外国人がいっぱいいるじゃないですか。僕が子どもの頃は、クジラって捨てるところがひとつもなくて、こんなに人間の暮らしに役に立っているんだっていう教育を小学生の時に受けているんですよ。だからね、商業捕鯨再開は嬉しかったです。

アイヌのイオマンテの熊おくりっていう話にだんだんなってくるんです。中沢新一さん（市街地エリアのキュレーター、人類学者）にまた教わりたいです。一つ一つの命に神様が宿っているっている感覚にすごく近くて、一番原始的な「アミニズム」っていう思想なんですけど。

小林：中沢さんにまたお話を聞いてみたらいいと思います。

リボーンアート・フェスティバルの開幕まで残り3ヶ月を切りました。作品が作られていく様子を見ながら、アーティストの作品にはどんな思いが込められているのか知ることができると、また違った景色が見えてくるのではないでしょうか。

5月中旬、桃浦のファームに5頭の子豚が入りました。

リボーンアート・フェスティバル2019
8/3(土) - 9/29(日)　網地島は8/20(火)から開催

ファーム担当の佐藤剛さん

桃浦にある宿泊施設「ももの うらビレッジ」の脇ではなんと、ブタの放牧がはじまります。ブタを育て、期間中は育てたブタを荻浜のリボーンアート・ダイニングなどで食材として料理にします。『いのちをいただく』ということに思いを巡らせる体験になりそうです。

ファームを担当しているのは、川崎町在住の佐藤剛（たけし）さん。放牧でブタを育てる養豚家であり、料理人でもあります。ブタの餌はサツマイモとカボチャがメインで、酒蔵からでる酒粕（さけかす）や豆腐を作るときにでるおからも混ぜているそう。「桃浦で育つブタには餌（えさ）にこの土地の海藻、牡蠣殻を混ぜてみたい」と話します。

お問い合わせ：Reborn-Art Festival事務局　TEL / 0225-90-4726

REBORN ART FESTIVAL 2019

PAST
こんなことがあったヨ!!

ワークショップ シルクスクリーン体験 トートバッグにスリマッカ！

5月4日、情報交流館牡鹿館へ、レトロ印刷JAM SURIMACCA+のスリマッカおにいさんがやって来て「ワークショップ シルクスクリーン体験」を開催していただきました。

事前に考えてもらったイラストや、その場で考えたイラストで版を作り、トートバッグなどにスリスリ。版にインクを乗せて刷り、持ち上げる瞬間は参加者全員が拍手をし、とても和やかな雰囲気でした。
参加者の中には、持参したTシャツやバッグなどに刷ったり、プレゼント用にたくさん刷ったりと、楽しんでいただけたようです。簡単に好きなデザインをトートバックなどに刷れるので、小さなお子さまも体験することができます。
多くのみなさまにシルクスクリーン体験をしていただくため、新しくできる拠点施設などでも開催する予定です。お楽しみに！

SOON
こんなことがあるヨ!!

7月6日（土） はまっこ市 開催決定！！

みなさま、大変長らくお待たせいたしました！
今年もやってきました「はまっこ市」！
金華山沖で水揚げされた旬の鮮魚や海の幸が盛りだくさんのイベントを7月6日（土）に開催いたします。
ぜひご お誘い合わせの上、家族や友人と一緒にお越しください。

詳しくは、来月の行政配布でご案内いたしますので要チェック！

日時：7月6日（土）10:00~14:00
場所：牡鹿公民館跡地
（石巻市復興まちづくり情報交流館 牡鹿館の隣）
お問い合わせ：0225-98-8491
（鮎川港まちづくり協議会 事務局）

保健師さんの健康コラム

風しん事情について知っていますか？

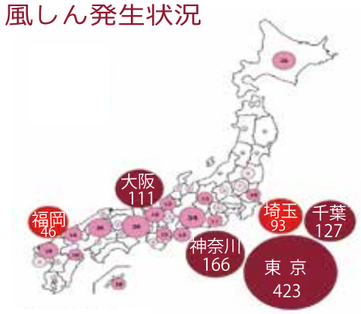
風しんとは

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。
咳やくしゃみなどの飛沫（ひまつ）により感染し、インフルエンザより感染力が強いといわれています。

風しん感染症状

感染してから約２～３週間後に症状が現れます。主な症状は赤い発疹、倦怠感と38℃前後の発熱、耳や首の後ろのリンパ節が腫れ、目の充血などです。
風しんの症状は、子どもでは比較的軽いのですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が発生することがあります。
大人が感染すると、発熱や発疹が長く続いたり、関節痛を伴うことが多いといわれます。

風しん発生状況



国立感染症研究所 感染症疫学センター調べ（平成31年4月中旬現在）

平成30年７月以降、関東を中心に発生数が増加していますが、宮城県内でも感染が報告されています。

‼風しん感染で注意が必要な事‼

風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの女性が風しんウイルスに感染すると、赤ちゃんが難聴や心疾患などの障害（先天性風しん症候群）を持って生まれてくる可能性があります。
風しんは、妊娠がはっきりしない妊娠初期から胎児への影響が大きいため、先天性風しん症候群を防ぐためには、男性を含めて多くの人が予防接種を受けて風しんの流行を起こさないことが重要です。妊娠中はワクチン接種を受けることができないため、女性は妊娠前に２回予防接種を受けておきましょう。

予防接種が最も有効な予防方法です

石巻市では、過去に公的な風しん予防接種を１回も受ける機会がなかった方に対し、追加的対策として抗体検査及び予防接種を実施しています。

●対　象：**昭和37年４月２日から昭和54年４月１日生まれの男性**

●受診に必要なもの：**クーポン券**と**身分証明書**

無料で受けられます。

※昭和47年４月２日～昭和54年４月１日生まれの男性にはクーポン券が送付されます。（４月下旬より順次郵送）
昭和37年４月２日から昭和47年４月１日生まれの男性もクーポン券が発行可能ですのでお問い合わせください。

抗体検査、予防接種は指定医療機関で

抗体検査、予防接種は指定医療機関で行いますが、抗体検査は、市が行う健診会場でもできます。
詳しくは、石巻市のホームページをご覧いただくか、電話等でお問い合わせください。

石巻市ホームページ　石巻市　検索

問い合わせ先

石巻市役所 健康推進課 予防接種担当 ９５－１１１１（内線 ２４２７、２４１５）
牡鹿総合支所　保健福祉課　健康対策グループ　４５－２１１３（直通）

石巻市牡鹿総合支所
保健師　遠藤 照美（てるみ）さん

郷の音

若い世代に鯨文化を広めたい

菊田 憲男（きくた のりお）さん

菊田憲男さんは株式会社鮎川捕鯨で働いています。商業捕鯨の再開が決まり、活気づく鮎川。菊田さんはまた捕鯨で鮎川を盛り上げるべく、若い世代の鯨食文化を育成していきたいといいます。

菊田さんの歩み

菊田さんは石巻市の出身。１９７２年（昭和47年）日本捕鯨株式会社に入社し、はじめは東京本社勤務だったそうです。

当時、日本捕鯨は鮎川のほか北海道の稚内（わっかない）と南米ペルーに事業所があり、ペルーには処理場の他、食品加工工場もあったそうです。稚内は春～夏の数ヶ月の間、長須鯨（ながすくじら）漁期だけ使用する事業所で全員鮎川から移動していたそうです。稚内には入社の翌年８月末から切上げまでの約半月、さらに次の年は操業開始から２ヶ月駐在し、秋に鮎川に転勤となり、鮎川との関わりはこのときから始まったそうです。

その後、和歌山県太地の事業所に駐在し、さらに石巻の食品工場で生産管理の仕事を経て中国にも駐在したそうです。２０１６年、鮎川捕鯨に戻ってきて、再び鯨に関わる仕事に携わっています。

捕鯨産業の活性化に若い力を

日本は国際捕鯨委員会（ＩＷＣ）を脱退し、商業捕鯨を再開することを決めました。まもなく再開される商業捕鯨を前に、菊田さんは若い世代に鯨食文化を広めていきたいといいます。

商業捕鯨が禁止になり長い時間が経過し、鯨に関するものの多くが失われ、特に若い世代や子どもたちから鯨の食文化は消え去りました。商業捕鯨再開を機に若い世代、子どもたちに鯨のことをもっと知ってもらい、更に鮎川を以前のように盛り立てていきたいと話してくださいました。また、捕鯨産業の活性化には捕鯨技術の更新と人材育成、特に若い力が必要だと…。商業捕鯨の再開で鮎川がどうなっていくのか楽しみです。

(写真：鹿井清介)

リボーンアート通信

Vol.3 桃浦編 もものうら

小林武史さん × **パルコキノシタ**さん

実行委員長
桃浦エリアキュレーター

アーティスト

リボーンアート・フェスティバルの実行委員長で、桃浦エリアのキュレーター(企画)をしている小林武史さん。桃浦エリアは「リビングスペース」というテーマで表現します。ゴールデンウィークに桃浦を訪れた時、少しずつ形が見えてきた作品を通じてアーティストのパルコキノシタさんと小林武史さんの2人が思うことを話していただきました。

自然という見えない神様と繋がる場所。

―パルコさん、今回はどのような作品を作られるのですか?

パルコキノシタさん(以下パルコ):
発想としては、今回は石巻の太陽を受け、土地のエネルギーをふんだんに取り入れて、すくすくと立派なブタが育つように。それを分かち合おうというのがファームの一つの目標です。

僕の作品としては『目に見えないけれど、確実に存在する神様からの恵み』みたいなものを我々は常に向き合って受け止め生かされて今を生きているということを表現したくて。常に一緒にいる見えない神様と向き合える、そんな状態になるといいなという。

―2年前の作品もそういう作品でしたね。

パルコ:2年前の作品は、震災で亡くなった4,000人近い方々の心は今どこにあるんだろうと『見えないものと向き合う』という表現でした。今回は悲しいだけじゃなく色んな恵みがあるということを体で感じるために、神様を作れたらいいなと思っています。でもそれは無謀でもあるし、結構自分のわがまま、業(ごう)みたいなものがすごく出てしまうと思うんです。ただ、ここにはそんな大きい存在がいるということを信じたくて形にしてみようと思っています。たまたまですけど、小林さんもわりと近いことを考えているということが分かりました。

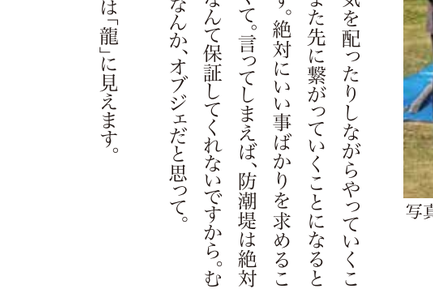
―小林さん、今回は桃浦エリアのキュレーション(企画)をされているということですが。

小林武史さん(以下小林):
リボーンアート・フェスティバル全体としては「いのちのでざわり」というテーマでやってきて、そこでパルコさんの幸先(さいさき)のいい作品が最初に出来上がってきていて、「あぁ、やっぱり通じているなぁ」と思っています。桃浦エリア一帯は僕の企画ですが、僕の企画はあんまりガシガシこう作ってくださいというものではなくて。

桃浦エリアのテーマは「リビングスペース」。訳し方や捉え方はいろいろあるけれど、あえていうと『茶の間』みたいなことなんじゃないかと僕は思っています。『茶の間』って言っても6畳、4畳半と空間が決まっているわけではなくて。いろんな日常も非日常的なこともあり、誰かがふらっと来て何かを置いていったり。子どもやおばあちゃんや世代も色んな人がふらふらと来て、『寅さん』みたいにいろんな人が出たり入ったりするような、置いてったもので『茶の間』が出来上がったりしそうだなと思ったりするわけで。

それらがそれぞれ発信していてね、その中で僕は神に通ずるようなもの、宇宙に通ずるようなものがあって欲しいなと思っていたんです。

大漁祈願、安全祈願をするような石碑は防潮堤に遮られていて、それが僕は『茶の間』みたいなことの発想のはじまりだったんです。だから決して防潮堤も悪く思うものじゃなくて、何か目に見えにくい強いものから人間がどこまでできるか、壁を作ってそれをなんとか防ごうとしているような、そこにも思いはあってね。でも、その壁がなんか色んな意味で邪魔だなって思うかもしれないけれど、パルコさんがここで作ってくれたおかげで何かそういうことにまた通り道ができるんじゃないかと思って。



制作中のパルコキノシタさんの作品

桃浦浜

パルコ:例えば、東京の高速道路って景観を損なうからまた取っちゃいましょう、日本橋の上にある高速道路を取っちゃいましょうって話があるけど。でも高速道路があるから非常に文明は栄えたわけですよ。

小林:昔「惑星ソラリス」という映画があって、人間はやっちゃいけないことをやってしまったけれど、別の角度から捉えて見ると僕らもそれに乗っかって更新していくってことが大事なんじゃないかと思う。でも更新するには行動が必要だからね。

このリボーンアート・フェスティバル2回目の(パルコさんの)幸先のいい行動はものすごい化学反応が起こっていると思います。

写真左:小林武史さん、右:パルコキノシタさん

僕らは不完全な生き物。いいことも都合が良くないことも響き合って生きていく。

小林:いいことばかりで成り立っているわけじゃない。防波堤が津波を完全に防げるとか防げないかが大事なんじゃなくて、そこに心をかけたり気を配ったりしながらやっていくことが何かまた先に繋がっていくことになると思うんです。絶対にいい事ばかりを求めることではなくて。言ってしまえば、防潮堤は絶対的な安全なんて保証してくれないですから。むしろ一つのなんか、オブジェだと思って。

パルコ:僕は「龍」に見えます。

小林:龍かもしれないし他の未完成なオブジェかもしれないし。不完全てね、僕らのことですから。不完全な生き物だと僕は思っていますから。

パルコ:そして人がここの地から離れずに、ここをもっともっと生かすことができるといいなと思っています。

小林:集まるとは数だけの問題ではないとも思うんでね。命の仕組みは集まること、集めること、細胞でもなんでも。そういうことを言う僕の友達がいて、なるほどなって思ったんだけど。都市に集まるっていうのは『個人の豊かさを叶えましょう』って看板が書いてあるようなもので。都市で「個人」の豊かさは叶えられても「個人」だから集まってないんだよね。

「集まっている」というのは響き合うというか。いいことも都合が良くないことでも繋がって響き合ったり分かち合ったりしていかなければならないので。本当はその方が大事なんじゃないかって思いますね。そもそも個人の豊かさを叶えますって何だろうって思う。お金がいっぱい儲かっていいことだらけってすごい胡散臭いもんね。そういうのに気がついている人が増えてきていると思うけどな。

いんふぉ・おしか
お問合せ
〒986-2523 石巻市鮎川浜寺前18-2 TEL:0225-98-8491
編集・発行：いんふぉ・おしか発行室（石巻市牡鹿地区復興応援隊）
発行部数：2,000部
facebook やってます

お茶っこしながら

パソコン教室

参加費 無料

**パソコンやスマホの基本的な操作を覚えたい方を対象に、
お気軽にご参加いただけるパソコン教室を開催します。
時間内は出入り自由で、知りたいことを聞きに行くだけでも大歓迎。
ぜひ、ご参加ください。**

パソコンやスマホの使い方等、何でもお気軽にご相談ください。
お茶っこをしながら、楽しいひとときを過ごしましょう。

インターネットはどうやって使うの ?!
よく聞くけど、Wi-Fi（ワイファイ）って何?!
こんなことになった時、どうしたら良いの?!

日時：令和元年 6月 7日,21日/7月 5日,19日（第 1.第 3 金曜日）
午後 1 時 30 分～午後 3 時まで（いつでも出入り自由です。）

場所：石巻市復興まちづくり情報交流館 牡鹿館
〒986-2523 石巻市鮎川浜湊川 63

講師：増子 光昭（ますこ みつあき）先生　元牡鹿中学校の校長先生。技術の先生です。
申し込み不要、普段お使いのパソコンやスマホ、タブレットをご持参ください。

問い合わせ先：0225 - 98 - 9950（情報交流館 午前 9時～午後 5時・火曜日休館）

主催：一般社団法人 鮎川まちづくり協会

てくてくおしか

5月を迎え、元号が平成から令和に改められました。令和には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められているそうです。

私は、情報交流館のスタッフとして4月から働き始め、震災を機に牡鹿半島を離れる人がいる一方で、県外から移住して地域を盛り上げようと尽力している人の姿に気がつくことができました。

この半島に目を向け、価値を見出してくれる人がいることがとても嬉しいです。失われたものは多いですが、多様な価値観によって新たな牡鹿半島の魅力が生まれることへの希望も湧いてきました。「令和」の元号の意味のようにたくさんの人が関わり合い、助け合うことでこの牡鹿半島が再出発できるよう願っています。

（あずみ）

石巻市復興まちづくり情報交流館　牡鹿館